

Ustream を活用した地域イベントの情報発信手法の確立に向けた実証実験の取組結果について ～ 夕張映画祭における「きたかん.net」の取組より ～

1 Ustream の可能性

Ustream とは、インターネット上で提供されている動画の発信・共有サービスであり、2007 年 3 月に米国の会社によって事業が開始され、2010 年 4 月に日本語版の提供が始まった。その特徴は大きく 2 点あり、「無料で」、「生放送」の発信が可能という点にある。しかも、発信に当たって必要な機材は、普通のパソコンとカメラ、マイクがあれば足り、誰にでも取り組めるものとなっている。このため、いわば、誰でもが、テレビ放送局になって世界に対して生中継ができるのである。

また Ustream はツイッター等との連動が行われており、視聴者はリアルタイムの映像をみながら、様々なやりとりを発信者とすることができるという特徴もある。

こうした Ustream の機能を、日本各地で行われている地域イベントでの情報発信に活用できないかという実証的な取組が、2011 年の夕張映画祭で、「きたかん.net」という北海道における観光まちづくりに貢献しようと自主的に集まった組織により行われた。

2 「きたかん.net」とは

「きたかん.net」（以下「きたかん」と呼ぶ。）とは、北海道庁が中心となって実施している「北の観光リーダー養成セミナー」を修了したメンバーが、自主的に集まって設けている組織であり、2011 年 3 月現在、約 100 名ほどが参加している。きたかんでは、「創発的な学習を持続的に発展させる」「各地域の観光まちづくりを支援・応援する」ことを組織の目的として、2010 年以来様々な活動を行ってきており、このたびの Ustream を活用した取組もきたかんのプロジェクトの一つとして取り組まれた。

3 夕張映画祭の課題

きたかんでは、プロジェクトの一つとして、2010 年夕張映画祭（正式名称は「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭」）で、自主的に来場者アンケートを実施し、そこから課題などを抽出し、映画祭事務局に提供するという事業を行っていたところであった。その中で、浮かび上がってきた課題の一つに、来場者等に対するインフォメーション機能が弱いという項目があった。すなわち、映画祭に来たとしても、どこでどのような映画やイベントをいつやっているのかが分かりにくい。チケットをどうやって入手すればいいのかわからない。尋ねたくてもどこに聞けばいいかわからない。夕張という街の情報、例えば交通機関の情報、飲食店の情報なども不足しているという声が多く寄せられたのである。

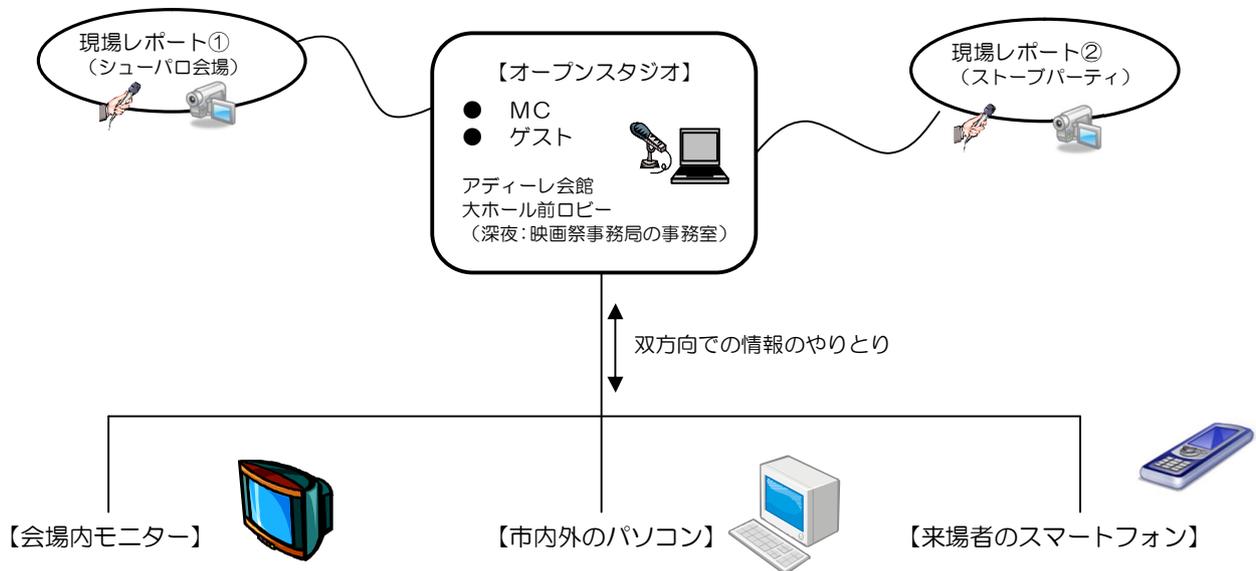
きたかんでは、来場者アンケートの実施によりこうした課題を浮かび上がらせて映画祭事務局に提供するのみならず、自らでこのような課題の解決に貢献できる方法はないかとの検討を重ね、その結果出されたアイデアが、Ustream の活用であった。

4 取組の内容

(1) 目的 ～ 映画祭と夕張の「今」を伝える ～

- ① 映画の放映スケジュールや放映会場、併せて開催されるイベント情報を、来場者及び市外の人へ発信する。
- ② 映画関係者や来場者からの生の声を発信して、映画祭を盛り上げる。
- ③ 夕張の飲食・観光・交通情報を、映画祭への来場者及び市外の人へ発信し、映画祭以外の夕張の魅力へも誘客する
- ④ 来場者からの様々な質問に答えるインフォメーションセンター機能を果たす
- ⑤ 急なスケジュール変更や突発的な事態の発生をリアルタイムで情報発信する。

(2) 概要



映画祭のメイン会場であるアディーレ会館内大ホール前ロビーにオープンスタジオを設け、そこをメインスタジオとして Ustream を使って、MCを勤めるきたかんメンバーから映画祭や夕張の飲食店等の情報を発信するとともに、映画関係者にゲストとして参加してもらいMCと対談する様子や、他の会場で行われたオープニングパーティやストーブパーティなどの様子も会場インタビューも交え発信した。

また、ツイッターで寄せられる様々なコメントにMCなどが反応しながらトークを行った。



(アディーレ会館大ホール前ロビー)



(アディーレ会館大ホール前ロビー)



(映画祭事務局事務室)



(ホテルシューパーロ)

なお、このたびの放映は、株式会社HBCメディアクリエートの全面的な協力を得て行われ、カメラやパソコン等の機材の準備や実際の撮影などは、すべてHBCメディアクリエートのスタッフに実施していただくことができたため、きたかんメンバーは放映内容のプロデュースやMCやレポーターなどの役割に集中することができた。

(3) 放映内容

番組タイトル「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 2011」

<2月24日(木)>

番組①映画祭のオープニングセレモニー

(MCなし。セレモニーの様子をそのまま放映)

番組②映画祭のオープニングパーティー

(MCなし。パーティーの様子をそのまま放映)

番組③きたかんメンバーによるトーク

(映画祭事務局の事務室から放映)

- ・映画祭初日の感想及び期待される映画に関するトーク
- ・夕張のご当地キャラクターであるメロン熊の着ぐるみやぬいぐるみ、また地元の長いも焼酎なども登場させて、夕張のPRも実施

<2月25日(金)>

番組①きたかんメンバーをMCとしてゲストとトーク

(アディーレ会館内大ホール前ロビー オープンスタジオから放映)

- ・映画監督や出演者にゲストとして参加していただき、自作映画等を紹介
- ・バリー屋台(夕張駅前にある飲食店の集まり)の店主と看板娘にゲストとして参加していただき、バリー屋台に関することや夕張市民の目から見た映画祭などについてトークを実施
- ・これから放映される映画やイベントについて紹介
- ・託児所など映画祭を楽しむ環境の紹介
- ・緊急上映が決まった映画の開催場所、時間等の紹介

- ・開催中止が決まったイベントの中止案内
- ・きたかんやそのメンバーについて紹介

番組②放映された映画のキャラクターとのフォトセッション

(MCなし。アディーレ会館内大ホール前ロビーから放映)

番組③きたかんメンバーをMCとしてゲストとトーク

(アディーレ会館内大ホール前ロビー オープンスタジオから放映)

- ・映画の監督や出演者、音楽担当にゲストとして参加していただき、自作映画等を紹介
- ・ゲストとともに、夕張のスイーツを試食の上紹介
- ・これから放映される映画やイベントについて紹介

番組④きたかんメンバーによるトーク

(映画祭事務局の事務室から放映)

- ・映画や、夕張の街に関するトーク
- ・映画、イベント出演者にゲストとして参加いただき、出演映画等を紹介
- ・これから放映される映画やイベントについて紹介
- ・映画祭のチケット購入方法など映画祭に関することの紹介
- ・夕張のスイーツやお酒について紹介

<2月26日(土)>

番組①きたかんメンバーをMCとしてフォトセッションイベントを紹介

(アディーレ会館前フォトセッション会場から放映)

- ・フォトセッションの中継
- ・これから放映される映画やイベントについて紹介

番組②きたかんメンバーによるトーク

(アディーレ会館内大ホール前ロビー オープンスタジオから放映)

- ・映画や映画祭に関するトーク

番組③きたかんメンバーと映画祭実行委員長のトーク

(アディーレ会館内大ホール前ロビー オープンスタジオから放映)

- ・映画や映画祭に関するトーク

番組④きたかんメンバーと映画出演者のトーク

(アディーレ会館内大ホール前ロビー オープンスタジオから放映)

- ・出演している映画の紹介

番組⑤きたかんメンバーによる夕張を紹介するバラエティ番組的ショー

(アディーレ会館内大ホール前ロビー オープンスタジオから放映)

- メロン熊とのトーク
- 夕張川柳の紹介
- 夕張特産品当てクイズ
- 夕張鹿鳴館シェフによる長いもバーガーや鹿鳴館の紹介
- メロン熊とのフォトセッション

番組⑥ストーブパーティ中継

(ストーブパーティ会場から放映)

- きたかんメンバーがレポーターとなって、ストーブパーティの様子やストーブパーティ参加者(監督、俳優等映画関係者、一般参加者)にインタビューを実施

<2月27日>

番組①きたかんメンバーをMCとしてゲストとトーク

(アディーレ会館内大ホール前ロビー オープンスタジオから放映)

- 映画監督や出演者にゲストとして参加していただき、自作映画等を紹介
- 映画や映画祭に関するトーク

番組②きたかんメンバーによるトークと「大木家のたのしい旅行新婚地獄篇」監督・俳優のゲストトークイベントの放映

(アディーレ会館内大ホール前ロビー オープンスタジオから放映)

(後段は、MCなし。アディーレ会館大ホールから放映)

- きたかんメンバーによる映画祭ふりかえりトーク
- 「大木家のたのしい旅行新婚地獄篇」監督・俳優のゲストトークイベントの放映
- 映画祭事務局メンバーにゲストとして参加いただき、映画祭ふりかえりトーク

番組③クロージングセレモニー

(MCなし。セレモニーの様子をそのまま放映)

番組④クロージングセレモニー終了後の囲み取材の様子の放映

(MCなし。セレモニーの様子をそのまま放映)

以上の放映内容をまとめると、次のようなパターンに集約される。

a. きたかんメンバーと映画監督や出演者等とのトーク、自作映画の紹介

b. 夕張の特産品や飲食店等の紹介(バラエティー形式や店主に参加してもらうなど多様な方法で)

c. これから放映される映画やイベントなどの情報の紹介

d. 映画祭のチケットの買い方や託児所情報などの映画祭情報の紹介

e. きたかんメンバーによる映画や映画祭、夕張に関するトーク

f. ストーブパーティなどの映画祭イベントをきたかんメンバーにより会場からレポート

(2) 映画祭の主催者など地元の関係者による評価

想定以上に番組内容が、多彩で内容のある放送が行われたことへの評価があった。また、Ustream 映像が、映画祭自体記録映像として役に立ったことへの評価もあった。一方で、やはり多様な企画を盛り込んだ放映は、映画祭を運営しながら同じ主体が実施することには負荷が大きく、限られたスタッフ数で取り組んでいる中では工夫が必要との声があった。

(3) スマートフォンの活用に関する評価

今回の事業目的の一つに「来場者からの様々な質問に答えるインフォメーションセンター機能を果たす」ということを掲げていた。そして、それは iPhone などのスマートフォンを持っている来場者が、スマートフォンで Ustream の映像をみながら、ツイッターなどで様々な質問を投げかけてくるということ想定した上でのものであった。

しかしながら、現在最も普及しているスマートフォンである iPhone は、Ustream 視聴用のアプリに不具合が多く、また、通常のブラウザで見ようと思っても、回線の問題もあるのか見るときができないことが多かった。このためツイッターでの発信も含め、ほぼ想定したことは実現しなかった。

また、このたびの事業にあわせて Docomo から販売されている GALAXY Tab を無償で借りることができ、活用を予定していたが、視聴だけであれば GALAXY Tab のアプリを用いて見やすい画面サイズで行えたが、本来期待していたスマートフォンから Ustream を見ながらのツイッターの発信は、アプリからは発信が行えず、またブラウザでは発信は可能であったが、操作性が悪く、タイミング良く発信することは困難で、現実的なものとならなかった。

しかしながら、こうした技術的な問題はそう遠くないうちにも解決されるものと思われ、また、スマートフォンの一般への普及も今後ますます進むことが想定される。今回の実験を通して、Ustream に関し、最も新たな可能性を感じることができたのはツイッターとの連動であった。Ustream はツイッターからの発信やそれに対する返事や放映上での対応があってこそ、通常のテレビ放送とも動画配信サイトの YouTube と異なるものとして、その存在意義を持つ。そのような意味では、今回の実証実験としては、目的の一つとしていた「来場者からの様々な質問に答えるインフォメーションセンター機能を果たす」という項目を実現することができなかったが、スマートフォンの普及やアプリの改良が進むことにより、Ustream は地域イベントでの来場者に対するインフォメーション機能を果たすことができる可能性が十分にあると認識することができたという意味では一定の成果があった。

6 今後の地域イベントでの活用に応じた留意点

Ustream は、今後の地域イベントの情報発信手段として、大変有効な手段となりうる可能性があるが、そのためには、次のような点に留意することが必要と考える。

① 継続的、全体的な取組の中での位置付け

Ustream による番組を視聴してもらうためには、そもそもそのような番組があるということを知ってもらわなければならない。このたびの取組は、映画祭事務局ではなく、映画祭事務局とは異なるき

たかんという組織が自主的、実験的に行ったものであり、そういう意味ではしっかりとした位置づけを有していなかった。

地域イベントの情報発信手段として視聴者を十分に確保するためには、イベントの主催者による正式な取組としてイベント全体の中での役割をしっかりと与えられるとともに、事前の告知などもイベントの告知と併せて確実に行われることが必要である。

また、毎年継続的に行っているイベントの中で Ustream による番組放映も継続的に行っていくことが、視聴者の確保には有効と考える。

② イベント参加者や視聴者の番組参加

Ustream の魅力は、イベント参加者や視聴者のツイッターによる番組参加と言える。単純に、イベントの様子を流すだけでは Ustream を十分に活かすことはできず、イベント参加者や視聴者の参加を前提とした番組企画とすることが必要である。

③ ツイッターとの連動

視聴者の番組参加の手段がツイッターである。また、多くのフォロワーを有する者によるツイートで、番組を紹介することは、番組を宣伝する最大の手段となるという意味でも、ツイッターと連動して Ustream での番組放映を考えることは欠かせない。

④ アーカイブでの活用

ライブ放送の視聴者のみならず、アーカイブとして過去の放映内容が残ることにより、継続的な情報発信が可能となっている。また、イベント主催者側としても、映像として記録を残すことができる。